

信州なすなの会会報 四三号

二〇二三年度二四年四月発行
事務局 松下 篤
〒390-0813 松本市埋橋二一〇一―二
電話 090-4717-3875
メール momomastata0925@gmail.com

信州なすなの会四〇周年記念集会

二〇二三年一月二日

開会礼拝説教

日本基督教団 松本東教会牧師

朴 大信

支え合ういのち

旧約聖書…創世記二章十八節

新約聖書…ローマの信徒への手紙十二九―一五

I

先日、私は牧師になる以前に勤めていました元職場(児童養護施設)でのある記念集會に参加して参りました。老朽化した建物を取り壊して、

間もなく新築工事に入るといふことで、その前に、かつてその古い園舎で過ごした卒園児や元職員たちが招待され、一堂に会する機会が与えられたのです。

当然、ありし日々の思い出話に花が咲きました。そしてまた、今は互いにどんな風に過ごしているのか、そのことも分かち合いました。幼い時から苦勞を重ねきた子どもたちです。様々な事情によって、親元で安心して暮らすことの叶わなかった悲しみや怒りを抱かされた子どもたちです。そうした辛い過去を背負いながら、しかし今はそれぞれ立派に、たくましく成長している。そんな彼らの姿を見ながら、胸がいっぱいになりました。何と表現したらよいか分からなかったところ、元同僚がこんな一言で言い当ててくれました。「君たちが今こうして生きているだけで十分!」。ああ、確かにそうだなと思いましたが、何か特別なものを用意しなくても、今こうして生きているだけで、一緒にいるだけで十分。そんな嬉しさが込み上げてくる。

II

しかし残念ながら、「あなたが今、ただここに生きているだけで十分」と互いに思いやれるほど、私たちの現実には穏やかで平和でしょうか。人が集まれば必ずそこに互いの違いが露わにされ、時には衝突が生まれます。強い者が弱い者を差別化し、排除する現実が至る所で起きます。「障がい者」と呼ばれる人々がこの社会の中で、また教会の中でさえ置かれてきた現実もまた、そうだと云わざるを得ないのではないのでしょうか。

そうした中で、今年四〇周年を迎えた「信州なすなの会(思いやりの会)」のこれまでの歩みは、この世に向かつて、また特に教会に対して、まことに先駆的な一石を投じる光のような存在であったことを思います。そして記念事業の一つとして刊行された会報の復刻版(合本)には、珠玉の文章や証しが寄せられています。

前会長の北原学人さんが、巻頭言で次のように書かれました。「私がこの会に惹かれたのは、(島崎光正)先生の『神様は私たち障がい者をも創造され、それをよしとされました。私たちは神様の失敗作ではなく、この世界を導くべき重要な使命を与えられている』とのメッセージからでした。障がい者に与えられている神様からの使命とは何かを知りたい、これが私のこの会への個人的な関わりの原点です」。

信州なすなの会は、「障がいをもったキリスト

者が集まって、キリストの愛を実現する信徒の共同体を健常者と共に創っていかう」との旗印のもと、故島崎光正さんのご講演が契機となつて、松本において「思いやりの会」として誕生したのがその始まりだと言います。そして、この会に据えられた五つの目標の中の三番目には、次のような目標が掲げられます。「障がい者に与えられている使命、役割を聖書を学ぶことによつて見直していこう」。

会報の記念すべき創刊号には、その島崎さんの講演記録が掲載されています。私はまず、講演タイトルに興味を持ちました。「障がい者は教会にとつて、なぜ必要なのか」。興味を抱いたポイントは問いの立て方です。そこに主客の逆転を見たのです。つまりここで前提になっているのは、「教会が障がい者を必要としている」という見方です。「障がい者が教会（福音）を必要としている」ならば分かりやすいかもしれませんが。そしてそれは極めて大切です。けれども島崎さんはもつと根源的なことを言います。

III

教会が教会となるため、またこの地上にあつてまことのキリストの体として証してゆくために、教会は障がい者の存在を欠くことはできない。私にはそう響いてきました。ではなぜそう言えるのか。それを島崎さんは「聖書を学ぶこと

によつて」紐解いてゆきます。以下に、しばらく引用させて頂きます（原文のまま）。

「…今迄キリスト教会はどういう役割を果して来たか、これは戦前戦後を問わずどの教会においても障害者がそういう所に救いを求め、神の家族の中にくみ入れられた、人間が復元出来た。但しその教会の受け入れ方において尚そこにおいて障害者は憐れむべき存在として同情され、又私共自身身体障害者の信徒がそれに甘んじていた傾向はなかつたかという率直な反省を求めざるをえません」。

「で私は今日思うわけです。…身体障害者信徒がこれ迄のように同情的憐れみの存在という消極的存在から一歩も数歩もいくようにいやや根本的にそういう所から転換しまして教会において欠く事の出来ない肢体として用いられていなくてはならない。これはパートとして部分としての宣教の課題であつたかも知れませんが、しかしこれは：教会そのものにとつての全体に関わる課題である」。

「実はそういう転換はどこからどういう風にするべきかそれはごく単純です。聖書そのものにさえればよいわけです。…その事がはっきり記されている箇所の一つとして私は今日ルカによる福音書を一章四章一二節以下ですね。…イエスが人の招待の仕方をいつておりますね。友人や兄弟や親族を呼ぶよりも貧しい人や不具者、

足なえ盲人達を招きなさいと、貧しい人や障害者をまねく事は本当の愛からでなければ出来ない。…」。

私たちの愛が最も脆く崩れ、偽善であつたことが露呈してしまうのは、自分とは異質な人と出会う時ではないでしょうか。外国人と出会う時、「健常者」が「障がい者」と出会う時、あるいはまた不幸なことに、「障がい者」や「非差別者」といった社会的弱者と呼ばれる者同士の中にも、様々な尺度で互いを計り合い、競い合う複雑な関係があることを私たちは知っています。自分とは異質な存在を受け入れ、招くことには、「本当の愛」が必要であるとの痛切な指摘は、まさしくその通りだと思えます。

そこで、今日与えられました創世記のお馴染みの御言葉に改めて注目してみたいのです。「主なる神は言われた。『人が独りであるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう』」(二・一八)。これは、女性が男性の補助的な存在として造られた、という意味では決してないでしょう。この場合の「助ける」とは、人間として生きることを助ける、ということではないでしょうか。その人(男)がその人らしく生きてゆくためには、他者の存在、それもその人とは全く異質な他者(女)という存在が欠かせない、ということです。

逆に言えば、もし自分の外に誰もいないとし

たら、私たちは何でも自分の思い通りにできて
 しまいます。その時、私たちは何だつてできる存
 在、言つてしまえば神のような存在になつてい
 る。あるいは、そこに本来の人間らしさが失われ
 ていると言つてもよいでしょう。しかし、何でも
 自由気ままに為せるところにだけ自分を見出し、
 自分の思い通りにならないと気が済まないとい
 う人間ほど厄介な存在はありません。だからこ
 そ「助ける者」が必要なのです。自分とは決定的
 に異なる存在、自分の思い通りにはならない存
 在こそ、実は逆説的に己を助け、自分という存在
 を豊かに造り上げてくれる。そうした真実を聖
 書は語っているのではないのでしょうか。

そして今日はもう一箇所、ローマの信徒への
 手紙もお読みしました。「愛には偽りがあつては
 なりません。…喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に
 泣きなさい」(一二九、一五)。これも実に厳し
 たいと願いながら、必ずしも心から他者と共に
 喜んだり、涙を流したりすることができない罪
 の中を生きているからです。喜ぶ者がいたら相
 手をひがみ、自分の不甲斐なさに嘆く。泣く者を
 見れば、その悲しみや苦しみを自分が背負わさ
 れることに耐えられず、相手を責め始める。他者
 の弱さに直面する時、私たちは愛を發揮するど
 ころか、最も醜い罪が頭をもたげるのです。そし

てとうとう逃げてしまふ。離れるのです。

けれども、そこから決して離れないでいてく
 ださる唯一の方がいます。主イエス・キリスト、
 「インマヌエル」と呼ばれるお方です。「神が私
 たちと共におられる」という約束を果たしてく
 ださつたこのお方の愛は、時空を超えて、今なお
 私たちの喜怒哀楽の深みに寄り添つてくださる
 姿として現れます。

あのゲッセマネで、「わたしは死ぬばかりに悲
 しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚まして
 いなさい」(マタイ二六三八)と仰つた主の十字
 架の死を目前にした悲しみは、人類のあらゆる
 罪の苦しみを贖わんとする故の呻きに外なりま
 せん。そのように決して見離すことなく、全ての
 重荷を担つて、歩みを共にしてくださるのです。
 私たちは、背負わされる自らの重荷のどん底で、
 しかしついにこのキリストに出会い、共に喜び
 悲しんでくださるその眼差しに触れて、このお
 方の愛に目覚めさせて頂くのです。

IV

終わりに、私の心に響き続けている島崎さんの
 詩をご紹介します。

「坂に向かつて」

車いすのスポークは朝の光に濡れながら、

いま坂を登つてゆく

友よ さらに

風に向かつて 道を辿ろう

遅い一歩一歩は

前進への確証

招きへの応答

存在は声だ

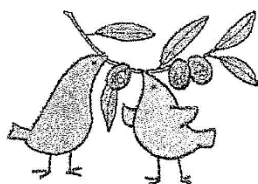
車椅子で仲間たちと坂道を登つて行く光景を
 想像します。しかも風に逆らいながらです。まさ
 にそれは「遅い一歩一歩」とならざるを得ませ
 ん。車輪を前に押し出す際の何倍もの苦勞、油断
 すれば押し戻されそうになる坂道の怖さもあつ
 たかもしれせん。それでも諦めずに励まし合
 い、ゆつくり登り続ける。その積み重ねが確かな
 前進となる。

ところがその前進は、人が頑張る前進とは違
 つて、「招きへの応答」だと言うのです。坂の向
 こう側から差し出される招きに応え続けるとこ
 ろで可能となる前進だと言う。その時、自分とい
 う存在は、まるごとその招きに応える「声」にな
 っている。「存在は声だ」。そう詩い上げるので
 す。

心透き通るような信仰の詩です。信仰告白に
 も聞こえます。なぜならこの詩は、私たちを招く
 神の呼び声こそが、私たち自身の姿を形造り、そ
 の歩みをも導く真実を表現しているからです。

逆に言えば私たちの存在、また日々の歩みの一歩一歩は、神の愛の招きにお応えする声であると同時に、神の愛を映し出す器ともなるのです。そこに、この私が本当に生きていくことの確かさがある。

その確かさの中でようやく、私たちはそれぞれが生きる馳せ場で、自らの内にもキリストの確かな愛を受け取り、養われながら、異質な他者を隣り人として迎えて共に歩んでゆくのです。



なずなの会会長としての抱負

上村 聡美

このたび前会長から責任を引き継ぐかたちで、会長に就任しました上村聡美です。ふつつかも

のですがよろしく願います。

このお申し出を前会長からいただいたのは世話人会の時でした。ほぼ寝耳に水の驚きのお誘いだったのです。コロナ禍に突入してから会長自身がまったく会に参加できず、ほぼオンライン参加でしたから、ご本人も覚悟を決められたのでしょうか。

なずなの会は障がい者キリスト者への伝道と、それに伴うキリスト教会の働きに少しでも貢献したいという、先駆者の強い意志があつて設立された組織だと、わたしなりに理解しています。前会長は発達障がい当事者でありクリスチャンでもあるわたしこそ会長にふさわしいと、白羽の矢を立てられたのでしょうか。

もしも信仰の厚さ薄さで検討されたら、わたしではとても責任を負いきれませんし、人間性が特別優れているとも言えません。能力的にも高くないです。それどころか世間一般にはやることなすことほぼ裏目に出る、無視され馬鹿にされる、たつていただけ邪魔！”と言われ、定職にもなかなかつけず、やつと就労できてもすぐ解雇されるため職を転々とするなど、”虫けら” 同然で生きて来た人間です。育ちが悪い、いつか問題をおこすであろう困りもんと言われたこともあります。ただ神様はちがいました。

「あなたは金銀よりも尊い」、「あなたをけしと離れず見捨てない」「わたしの言葉は一点一面も地に落ちることはない」「主はわたしの助け主、わたしには恐れがない、人はわたしに何ができようか」「神様は良い行いをするためにあらかじめ備えてくださった」と、数えきれないほどのお言葉かけをしてくださり、いつでも振り向けば神様はそこにいてくださった、「悲しいよ」と神様につぶやけば、見えない手でわたしを抱きしめながら、ずつとつぶやくままにしてくださいました、こんな神様がそばにいてくださったから、わたしは生きてこれたのです。主に感謝。

前会長から指名された時、わたしをそんな風に見てくれている人がいたことはうれしかったです。ですが、一つ心配なことがありました。それは「天から与えられなければ、人は何も受けることができない。ヨハネ三二七」の言葉が脳裏をよぎったからです。一つ返事で「はい」と言える内容ではないと感じました。

少し祈るために次の世話人会まで待つていただきたい想いを、世話人の方々に伝えました。今回も脳裏に浮かんだ言葉がありました。「わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから」。この時セラビムのひとりが火ばしをもって、祭壇の上から取った

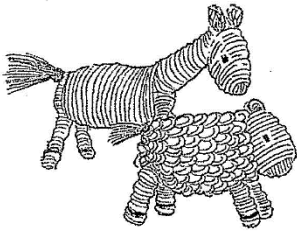
燃えている炭を手携え、わたしのところに飛んで来て、わたしの口に触れて言った、「見よ、これがあなたのおちびるに触れたので、あなたの悪は除かれ、あなたの罪はゆるされた」

ああそうだよね・・・神様はわたしを良とされたのだから、神様に黙ってついていけばいいんでない？しかも次のみ言葉はわたしの原点ともいうべきみ言葉でした「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」。その時わたしは言った、「ここにわたしがおりません。わたしをおつかわしてください」イザヤ六・八の原点に帰れ！ということでしょうか。そうしてわたしは会長を引き受ける決意を固めて今にいたります。

わたしは誰のもとへ使わされるのか・・・あるビジネスマンから言われた言葉が心に引っかかっているのです。「感謝されたって結果を出せないならどうしようもない」と。胸につきさりました。この世は結果がすべて。結果を出せない人間は生きる価値すら与えられない。結果を出してのし上がっていく人間って、どれくらいいるんだろうか。

結果を出せずに絶望して未来を断ってしまう人が、たくさんいるのでは？と想いました。先ごろの某セミナーで国内の自殺者が、一つの県がすつぽり消滅するほどいるのだときま

した。もしかしらたら今の瞬間でもどこかで未来を自ら断ってしまった人がいるかもしれない、もしもわたしがその前に出会えていたら、なにもできないかもしれないけど、心を寄せることはできるかもしれない、一緒に祈ることもできるかもしれない、わたしのようにイエス様の救いと出会って、まがりなりにも新たな未来を歩むこともできるかもしれない、だれよりも神様がそれを望んでおられるような気がします。声をからしながら「わたしはここにいます」と呼びかけ続けてくださっている主の声を一人で多くの人たちに届けることができたら、わたしの人生は意味があったなと想える気がします。小さいけど一歩を踏み出すために。皆様、わたしのためにお祈りくだされば感謝です。



障がい者の使命とは

日本同盟基督教団 伊那聖書教会

北原 学人

私がまだ日本キリスト教団の教会に集っていた頃、車いすの詩人である島崎光正先生が講師として奉仕してくださったことがありました。

その講演を通して「神様は私たち障がい者をも創造され、それをよしとされた。だから私たちは神様の失敗作などではなく、この世界を導くべき重要な使命を与えられている」という新しい視点が与えられて、目から鱗が落ちた感じがしました。私は、この重要な使命とは何かについてもっと知りたくて、伊那からこの会に導かれてきました。

私が初めてこの会に参加した日は、奇しくも思いやりの会最後の総会の日でした。この日、思いやりの会は信州なすなの会として再出発することが決まったのです。私は二つの点で、松本地区思いやりの会が信州なすなの会へと進化していく必要があったのだと、総会での話し合いを聞いて感じました。

一つめは、健常者が障がい者を一方的に思いやるという発想から、健常者も障がい者も共に補い合って神様から委ねられた大切な使命を果た

す会へと変わっていかねばならない。

二つめに、この普遍的な働きは、松本地区だけでなく全県的な働きへと広がっていく必要がある。

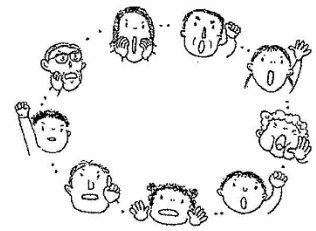
実際今日まで、信州なすなの会は北信から南信まで個々の教会を越えて、より多くの人々に影響を与えながら活動してきたと思います。

私もそんな会に参加することで、時に立ち止まって自分に障がいを与えられている意味と使命について思いをめぐらすことができました。

またなすなの会の集いの場で、自分の障がいやその時々を抱え込んでしまった信仰生活などの難題について、悲しみや苦しみが止揚され救われていく証しを聞いていただきました。それが自らの信仰の成長の糧ともなってきました。

私は自分の障がいと比較的落ちついていたこともあり、切迫する自分の魂の救いの方に、より強い関心を傾けて求め続ける歩みをしてきました。そのような歩みを通して、「たとえ私たちが意識しなくても神様から与えられた使命は、神様ご自身の手によって成し遂げられていくのではないか。だから神様を信じてお委ねして、自らの歩むべき道を精一杯歩んでいけばいいのだ」と思うようになっていきます。

これからも信州なすなの会の場で、皆さんと信仰の分かち合いを続けることができましたら願っています。



キ障協愛媛大会参加報告

上村 聡美

キリスト障がい者団体協議会総会&修養会に参加してきました。

日時：二〇二三年七月三〜四日（一四時〜）

会場：愛媛県松山市道後温泉

障がい者福祉センター

三年ぶりのキ障協総会が開催され、わたしと吉野陽一さんの二人で行ってきました。

朝から曇り空でちょっと雲行き怪しかったのですが、電車、飛行機ともすんなり時刻通りでしたので、そこはほんとに感謝です。

二〇年ぶりに新宿に降り立ったのですが、羽

田へ向かうまでの間でモーター音の渦と人ごみに閉口しました。なんで都会はこんな人が多いのだろう・・・

松山空港に降り立った時は、路面がぬれていたのが雨が直前まで降っていたのかな？ 若干飛行機が遅れたのはこのためか・・・

一四時〜受付、一五時〜開会礼拝

ヨハネの福音書五：一〜九「おきあがりなさい」小島牧師（久方教会）

一六〜一七時半 主題講演

マタイの福音書二五：二四〜二七「息子の障害を賜物として」成田信義牧師（土佐教会）
（この間休憩と夕食時間が入ります）

一九時〜二〇時 教会子ども食堂の証

分望牧師（三津教会） 森

特急と飛行機を使っても片道八時間の旅、そして行き着く暇もなく一日の行事へ。

かなり濃密で得るものも多かったのですが、さすがに基調講演が始まる頃には集中力が持続できなくなっていました。

成田先生のお話は発達障害の問題と深くかわる問題でしたので、時折「自閉スペクトラム症」や「多動」「びよんびよん跳ねる」などのワードが耳に飛び込んできました。

びよんびよん跳ねる？

それって自閉症の特性じゃああ・・・
知的障害も伴うなら明らかに自閉症じゃないかな。もしかして自閉症と発達障害の合併症かもしれない・・・

わたしは当事者の立場から疑問や意見を発して
みた・・・けれど後々後悔しました。
もしかしてお父さんのプライドをズタボロにしたかもしれない・・・

わたしとしては情報を少しでも提供したい、
当事者を理解し受け止めてくださる存在は貴重

であることと、みんな話を聞いてもらいたいの
だという当事者としての思いを伝えたつもりで
したが、求められてもないことをまたずばず
ば言い過ぎたのでは？

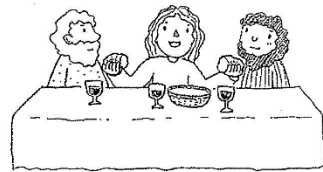
周囲の人は「そのままでもいいよ」とはいつてく
れたけれど・・・

食事の時間はとても濃密で恵まれた時間でし
た。複数の方の証を聞くことができたからです。
みなさんどれだけ大変なところをくぐって今に
いたっていることでしょうか。

帰りもまた天候に恵まれ、大きな事故や災難
に会うことなく帰途につきました。一緒に同行
した兄弟が実に手際よく動いてくれたので、さ
すがにどんくさいわたしもスムーズに動けまし
た。

一泊二日という短い時間でしたが、様々な要素

がぎゅつと濃縮された体験でした。
主に感謝。



手障協愛媛大会に参加して 報告

「松山のこども食堂」

吉野 陽一

牧師一家に育った、若い女性牧師が話して
くれました。

牧師の父は困った人がいたら、すぐに家に呼
んで家族一家で食卓を囲んでいました。

お米は、古米、古古米。
しかし、本当に飢えるようなことはありません
でした。

教会や地域の人の関係は密で、仲が良くて、魚
やタケノコやみかんを持ち寄って来ました。

さんまを獲ったおじさんは「獲ったどー！」と
笑顔で走って来ました。

子供の頃、どれだけ周りの人たちが温かく支
えてくださったか知れません。

今は、こども食堂やフードバンクやいろいろ
と繋がっています。

ここで、わたし(筆者)の気持ちとしては、昔
のように社会全体で福祉をやっていた時代は
輝かしく思います。

秋に赤とんぼが飛んでいたのが、わたし(筆
者)にとって福音的だと思います。

以前なすなの会の世話人で、献身された横内
純先生(松本教会出身)がなすなの会に近況報告
を寄せていただきました。

先生のこれからの活躍が主に守られることを
共に祈っていきましょう。

信州なすなの会の皆様へ

横内 純

主の御名を賛美致します。二〇二三年三月に
無事日本聖書神学校を卒業することが叶いまし
た。特に日中仕事で夜間勉学と大変濃密な時間
を経験させて頂いた訳ですが何とか無事卒業す
ることができたのは、松本教会・信州なすなの会
を初めとして実習教会や同級生といった多くの

方々に支えられ、また折られてきたからだと思
つております。そして何より神が新潟の上越、そ
して妙高の地に私を遣わそうとして下さったの
だと思っております。

二〇二三年四月より高田教会の主任担任教師、
新井教会の主任担任教師代務者として着任しま
した。高田教会の就任式は七月二三日(日)に高
田教会礼拝堂にて執り行われます。主任とい
うことで他に教師はおらず、二つの教会の仕事
を担っていくことになりましたが自身に障がいがあ
るといふこと、そして障がいがあるが故に人が
できることを同じようにこなせない現実がある
という事を徐々に話していけたらと思うのです。
皆私とは生まれや育ちは違う訳ですがそれでも
教会に集められ、神を賛美する礼拝に神によつ
て与らせて頂いているのです。やはり教会は
どなたでも足を運べる、讚美や祈りを通して神
の愛を神から頂いていることへの感謝を持って
集う事が叶う場所でありたいと心から願うので
あります。

教会着任以降は高田教会に連なっている牧師
館で住まわせて頂いております。未だ神学校在
学中に集めた書籍の整理や暮らしの為に日用品
を買い求めたりするなど、それらは仕事の合間
を見つながらしています。また新井教会では
すでに納骨式を一件五月の連休明けにさせて頂
きました。大雨の土砂降りの中ではありまし

が、初めて納骨式を執り行わせて頂きました。
生活のあらゆる場面で神が共におられ、感
症の只中であつたとしても、松本教会や高田教
会、新井教会を守って下さっていることに心か
ら感謝すると共に集う皆様の日々が豊かな聖
霊の働きによって支えられていきますように心か
ら信じ願います。

「ああ、物分かりの悪いガラテヤの人たち、だれ
があなたがたを惑わしたのか。目の前に、イエ
ス・キリストが十字架につけられた姿ではつき
り示されたではないか。」
ガラテヤの信徒への手紙三章一節

私達は、主イエス・キリストが公に十字架にか
けられ死んだことを知り信じ、そして告白して
います。時代が変わったとしても主イエス・キリ
ストの十字架の死によつて私達は贖われ、一人
一人が救いを見出すことができたことをこれか
ら隣人を愛する中で信じて参りたいと心から
願います。

日本基督教団高田教会 主任担任教師

横内 純



「信州なすなの会」のYouTubeチャ
ネルを作りました。

チャンネル登録をお願いします。

登録の仕方

・YouTubeアプリ→検索→なすなの会
→動画を表→チャンネル登録

・チャンネル
URL→<https://www.youtube.com/@user-jzxi7jhl3l>→チャンネル登



QRコード

吉野陽一さんが、
信州なすなの会の
YouTube チャン
ネルを開設してくだ
さいました。愛媛大
会と昨年の松本東
教会で行われた総
会の音声を聞くこ
とが出来ました。
ぜひ活用してくだ
さい。

会報の編集と刊行が大幅
に遅れてしまいました。
松下の先送り症候群？の
せいですが、それでも主が
助けてくださり世に出す
ことが出来ました。感謝
のみです。